

春の叙勲・春の褒章



【瑞宝双光章】（消防功労）

元日野町消防団長
ふじはら よういち

藤原 洋一さん（根雨）

藤原さんは、昭和44年1月に日野町消防団に入団。以来、第1分団分団長や副団長を歴任し、平成22年から平成28年までは、日野町消防団団長として消防団組織の維持・向上に貢献されました。また、平成12年の鳥取県西部地震をはじめ、さまざまな災害や火災現場で町民の生命・財産を守る活動を率先されてきました。そうした長年の功績が認められ、今回の受章となりました。

【受章のことば】

今回の受章は、47年間にわたる長年の活動を認められたのではないかと思います。その中で印象的なことは、まず昭和55年の全国消防操法大会で全国準優勝を果たしたことです。その時は、昭和天皇の御前で操法を披露できたことが印象に残っています。また、鳥取県西部地震などさまざまな災害を経験してきましたが、これまでやってこられたのは家族の支えがあったからだと思います。ありがとうございました。

おめでとうございます

【緑綬褒章】（社会奉仕活動功績）

前日野町食生活改善推進協議会会長
さ さ き た か こ

佐々木 高子さん（舟場）

佐々木さんは、昭和54年から現在まで37年間にわたり、食生活改善推進員として食生活の質の向上を目指して活動。スキムミルク入りのおこわやそば会席を考案するなどアイデアも豊富でした。また、時代の流れとともに食生活だけでなく、ストレッチ体操やコーラスなどの普及活動にも力を入れ、心と体の健康づくりを同時に進めてこられました。平成11年度から14年度までの4年間は、県食生活改善推進協議会の会長職を務め、組織や人材の発展・育成などに貢献されました。そうした長年の功績が認められました。



【受章のことば】

町食生活改善推進協議会の発足以来、約30年間にわたり同協議会の会長としてやってこられたのは、皆さんのおかげだと思っています。食生活の改善は、一人では絶対にできません。私一人の力だけでなく、会員一人一人の支えがあったからだと思っています。また、家族の支えがあったことも忘れていません。皆さんにも大切な人や家族がいるはずです。その人をこれからも大事にしてほしいと思います。

さまざまな分野で活躍し、社会貢献した人を表彰する「春の叙勲」および「春の褒章」が、4月29日、内閣府から発表され、叙勲では藤原洋一さん（根雨）が瑞宝双光章、褒章では佐々木高子さん（舟場）が緑綬褒章をそれぞれ受章されました。



“五人五色” 地域を変えていく原動力に

地域おこし協力隊活動報告会



地域での新たな発見の数々を報告する高下さん

日野町の地域おこしに取り組んでいる町地域おこし協力隊の5人が、日々の活動内容を広く知ってもらおうと、5月16日、町山村開発センターで活動報告会を開きました。

報告を行ったのは、受け入れ団体の菅福元気邑（上菅）で活動している、北田千春さん（上菅）、中山法貴さん（黒坂）、内田麻美さん（上菅）、ねうあぐり倶楽部（根雨）の高下莉奈さん（舟場）、奥日野ガイド倶楽部（舟場）の平林知紘さん（根雨）。地域住民ら約30人が出席する中、これまでの活動の振り返りと今後の予定などについて話しました。

協力隊として3年目を迎える北田さんは、「地域支援を行っていく中で、技術を磨いていけば、有料化など将来の生業につながると感じた。自由度が高いのが協力隊の強み」と発表。着任から1年が経過した高下さんも、「米作りや特産品を使った商品開発など、地域を知る二年間だった。今後はそれらを生かし、どんどん新しいことにチャレンジしたい」と今後の展望を語りました。

受け入れ団体などからは「自由度の使い方が大事。もっと自分から積極的に動いてほしい」「選択と集中でたくさん引き出しを増やしてほしい」とエールが送られていました。



活動報告の場が共に地域を活性化させていく機会に

丹精込めて育てられたサツキと盆栽に感嘆の声

第45回日野町さつきまつり



今年も見事な花をつける

町内の愛好家らが丹精込めて育てたサツキや盆栽を展示する、第45回日野町さつきまつり（日野町さつき盆栽研究会主催）が、6月4日から3日間、町山村開発センターで開かれ、訪れた人を楽しませました。

会場には、所狭しと数々のサツキ盆栽が展示され、サツキは赤、白、ピンクと華やかな花を咲かせ、盆栽も小さな鉢の中に広がる景色で、人々を魅了していました。

▼受賞者（最優秀賞のみ掲載）

サツキの部（銘木の部） 谷口俊典さん（中菅）
盆栽の部 荒木朝則さん（黒坂）

日野川の自然に親しむきっかけに

保育園児がアユを放流



大きくなってね！アユを見守る子どもたち

5月16日、黒坂カワコふれあい公園で、ひのっこ保育園の年長児11人が、稚アユの放流（日野町水産振興連合会主催）を行いました。

アユを用意した同連合会の会員が見守る中、元氣よく跳ねる稚アユにびっくりする子どもたち。それに負けないくらいに歓声を上げながら、「大きくなあれ」と、次々にアユを放流していきました。

今回放流された稚アユは約1万匹。子どもたちに見送られながら元気に泳いでいきました。